

# やすらぎだより

9  
月  
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第171号

## 「 結果の証 」

施設長 植田 誠



長月を迎えた途端、ここ福住には朝夕涼気が漂う。そして、施設1Fロビーには色鮮やかな作品が絢爛豪華に立ち並び、華やかな空間に様変わりする。

9月の敬老月間を祝した「作品展覧会」と称し、昭和の時代から続く当法人の伝統行事。三施設のご利用者様や職員が丹精込めたモノ作りには、毎年感服させられる。作品の精度もそうだが、不自由な手指をいわず丁寧に仕上げようとされるその姿勢に、我々は心が打たれる。

居並ぶ一つ一つの作品は結果の証だが、読み取らなければならないのは実は過程こそにあるのではないか。作品に対する作者の想い、時間を費やし心込め続ける道程を探ることで、結果の証以上の気付きを与えてくれるかも知れない。

と、偉そうに記しながらも、では自身の胸に手を当てれば恥ずかしい限りだ。数年前までは創作意欲に満ち溢れ、8月半ばより無い知恵を絞りながら毎年違う作品を披露していたが、ここ数年は同じことを繰り返している。勿論、企画力や想像力が乏しいことが根底にあるのだろうが、単純に‘モノを作る’ということに煩わしさをおぼえてしまうのが、正直な気持ちなのである。

数年前からは「祝いの四文字」と銘打って、造語の熟語を筆書きして出品している。すると習字下手が周知されている私に対し、疑いの眼差しをもって毎年同じことを聞かれる。

「施設長が書かれたのですか？」

その度、私は同じ返答を繰り返す。

「自分で書いてはいますが、なぞり書きです」と

‘作品は結果の証だが過程を読み取るのが大事’などと人には申しても、八月の末になれば慌てて筆を執る。なぞり書きがいつ卒業できるのか、煩わしさから脱却しいつ前向きな気持ちになれるのか。

自問自答が繰り返されるこの九月、ゆっくりとロビーでたたずんでみることにしよう。



### 社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業